平成２５年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	言語活動の充実を図る芸術科書道の授業事例研究 －大学と附属高等学校等との連携プログラムを通して－

研究代表者

氏名	所属	職名
加藤泰弘	芸術・スポーツ科学系（美術・書道講座）	教授

研究分担者

氏名	所属	職名
荒井一浩	附属高等学校	教諭

【研究成果の概要】　（文字の大きさ９ポイント・字数 800 字～1600 字程度）

現行の学習指導要領では言語活動の充実を図り，生徒の思考力・判断力・表現力を育成することが重要な課題となっている。また，書道教育を通して育成すべき資質や能力は何かを踏まえながら授業計画を検討することが求められている。書道は「言葉」を書くことによる表現芸術であり，表現や鑑賞の諸活動において言葉との関わりが密接であり，言語活動においては他の芸術科目とは異なる特質を有している。本研究では，附属高等学校との連携を図り，大学における有意な書写・書道教員を育成するための授業改善について検討したものである。特に，言語活動を促す教材の工夫や提示方法の改善において研究し，教育機器の有効活用にも視点をあてた。

これまで，附属学校研究会や附属学校プロジェクト研究に参画し，附属高等学校との連携を積極的に推進し、その研究成果は、「思考力・判断力・表現力を育成する書道教育の展開－東京学芸大学における附属高等学校と大学との授業連携プログラム」（『日本教育大学協会研究年報』第 31 集 平成 25 年 3 月 31 日発行）で発表した。これを発展させ，特に今回は「言語活動の充実」に視点をあてた先進的な書道授業の事例収集と分析を行う。特に鑑賞教育における事例に参考となる内容が確認できた。また，韓国においては，ICT を活用した授業展開が積極的に行われており，本研究においては，その先進的な事例も参考にする。これらの成果を大学の教科教育学の授業，特に「書道科教材論」の授業で活用し，グループによる熟議を通して事例の特質や課題を検討し，教員としての実践力を高める大学授業の改善・充実を図ることに一定の成果を得た。さらに国語科書写との円滑な接続の観点から，書写教育における文字指導や文字文化の学習との関連を図った授業展開や教材についても研究を広げた。

これまでの書画カメラ等の教育機器を使用した授業研究については，前年度より一層の深化を図った授業例を学生間で検討できたが，今後，普及が見込まれるタブレット PC の有効活用については，十分な検討を行うことができなかったので，今後の課題としたい。

研究成果発表方法

［発表論文名（口頭発表を含む），氏名，学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。］

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに 1 部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

書道教育論叢（東京学芸大学書道教育研究会発行）への投稿を予定している。